

信州における白鳥

神谷 要・小西 敢

日本白鳥の会事務局

2005年2月12・13日、第29回白鳥の会の研修会が、長野県南安曇野豊科町で開催された。これを機会に、長野県におけるハクチョウの生息状況を視察した。長野県におけるハクチョウの生息地は、安曇野周辺と諏訪湖周辺の二ヶ所に別れており、そのほとんどがコハクチョウである。今回はその双方を視察することができたのでここに報告する。

◎安曇野周辺

研修会を開催した安曇野(図1)は、2月というのに平野部には積雪がまったくなく、湧水があちらこちらに流れ、わさび田が広がる環境である。ここに飛来するコハクチョウたちは、河原を畔(ねぐら)としている。安曇野に飛来する約1300羽のコハクチョウは、犀川の豊科町白鳥湖(36° 18' 46" N 137° 55' 49" E 標高537m、図2)と明科町御宝殿(36° 21' 31" N、137° 55' 11" E、標高517m (図3)の河川敷の2箇所の畔に分かれて生息している。



図1. 安曇野の空撮。○が明科町御宝殿、△が穂高町狐島。矢印の先に豊科町白鳥湖がある。2004年10月25日撮影。

多くのコハクチョウたちは、埜である河川敷で、一日中人からもらう餌(米、パン、ハクサイなど)を中心に生息している。一部のコハクチョウ(200から500羽程度)が、採食に穂高町狐島(36° 21' 05' N 137° 53' 37' E 標高537 m)の湧水を導入した冬水田んぼ(200m×200m)に草の根を食べたり給餌を受けに移動している(図4)。この水田は寒くて氷が張ってしまうとハクチョウが利用できないので、ボランティアが氷を割って飛来を確保しているそうである。

また、近年、少数であるが、刈田や麦畑にハクチョウが入るようになってきているようになっている。今回も農地で採食するコハクチョウ20羽ほどを確認できた。今後食害などが問題化するかもしれない。これら、安曇野のコハクチョウの生息地は、数キロ圏内にあり、どこも観光客でにぎわっていた。



図2. 豊科町白鳥湖の様子。

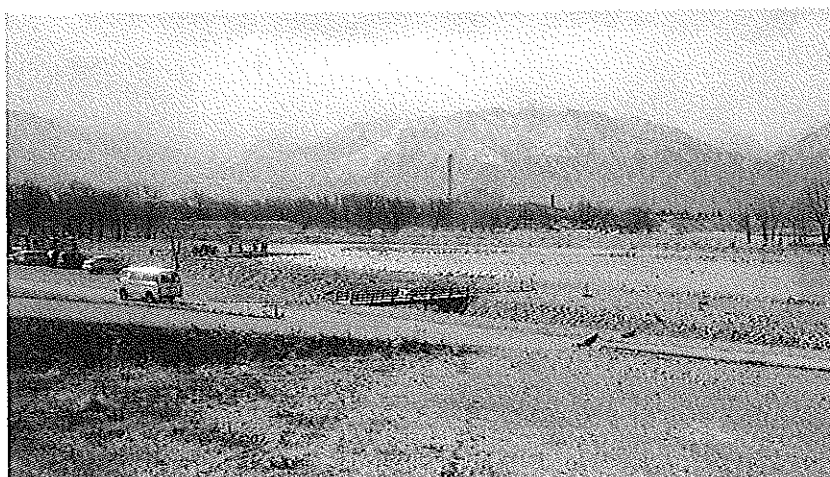


図3. 明科町御宝殿の飛来地。

◎諏訪湖周辺

諏訪湖周辺には、二カ所のハクチョウの飛来地があり、ひとつは諏訪湖の北岸にある岡谷市(36° 03' 20' N、138° 04' 16' E、標高759m)にある。一見普通の湖岸にハクチョウたちが集まっていた(図5)。安曇野より10年ほど古い1970年代からハクチョウが定期的に飛来するようになっている。ここでは、諏訪湖白鳥の会が定期的な給餌を行っており、多くの報告が本会にもなされている。特に、ビルパターンによる個体識別でスワコやノリコの報告で有名な場所である。

ここを訪れたのは、昼間であったのでコハクチョウの数は少なかったが、ここで多くのハクチョウが畔をとっている。ただし、諏訪湖は結氷することがあり、その場合は湖の中央へハクチョウたちは移動する。平日にもかかわらず、多くの人が見学に訪



図4. 穂高町狐島の冬期冠水水田。

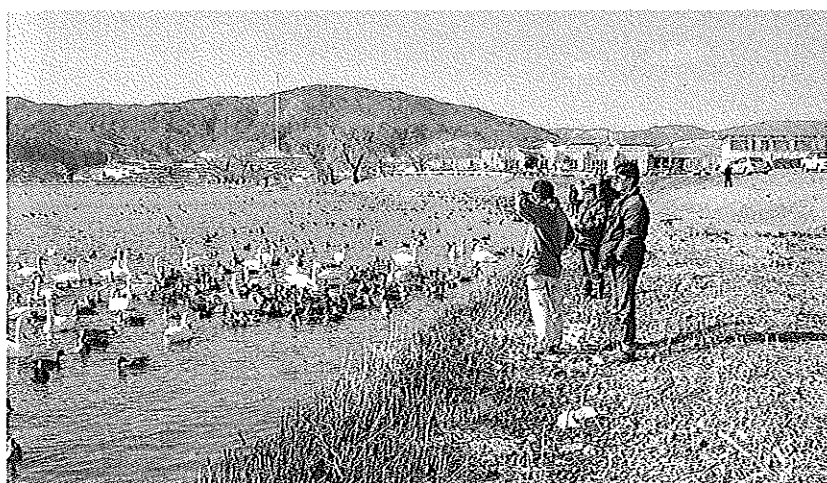


図5. 諏訪湖北岸の景観(岡谷市)部分的に氷が張っていた。

れていた。

もうひとつの飛来地が、この諏訪湖が完全に結氷したときに避難する上川の給餌地(35° 59' 52' N、138° 08' 31' E、標高764m)である(図6)。上川は、最初は避難場所であったが、上川白鳥の会の給餌によってここへコハクチョウが居つくようになり、現在は時をとるコハクチョウも多くいるようになっている。ここは、コハクチョウの飛来地としては、ずいぶん狭い場所で、川幅は30mほどしかないが、餌をもらいに約300羽のハクチョウがきていた。急な流れのため凍らないのが利点のようだ。

諏訪湖周辺、安曇野には、コハクチョウが降りることができそうな水田が残っているが、ほとんどここでは確認されていないようである。この地域は、標高500~800mと標高が高いために、湖や水田の凍結が重要な問題で、それ故に河川を中心に生息地を選んでいることが推測できる。このため、コハクチョウたちは、苜蓿で採食する



図6. 諏訪市上川、流水であるために凍らない。

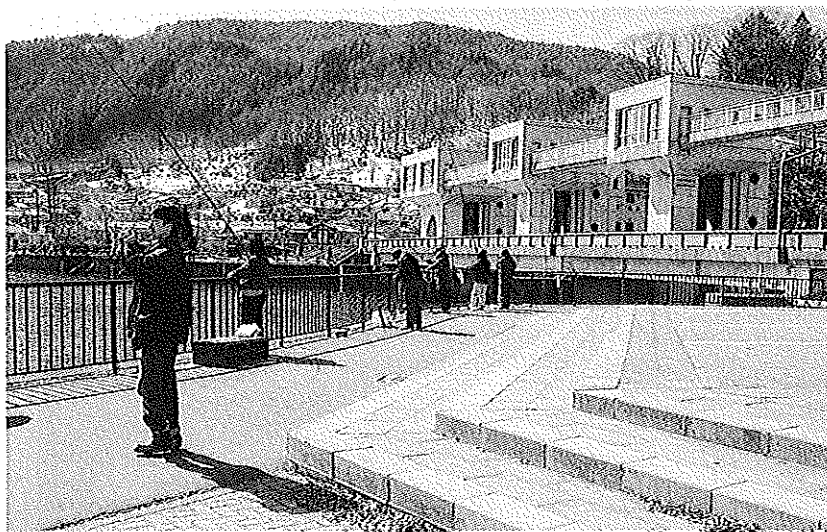


図7. 諏訪湖 釜口水門 ここから天竜川が始まる。ワカサギ釣りの人が多く出ている。今年は豊漁とのこと。湖水は冬だというのに緑色であった。

新潟平野のコハクチョウとは異なった生息地の選択をしているようである。このようなことから、気温と白鳥の採食生態にはなんらかの関係があるのかもしれない。

また、諏訪湖は湖岸の自然再生が盛んで、湖岸に捨石護岸のスロープや、離岸堤、植生回復などさまざまな試みがなされていた。すべてが適切といえないかもしれないが今後が楽しみである。

これに対して、諏訪湖のワカサギ釣りの錘の誤飲よりコハクチョウの鉛中毒は深刻な問題である。ワカサギ釣りは、諏訪湖のもっとも人気のあるレジャーであるようだが(図7)、これに対する対策として鉄錘が開発されていると、今回の研修会で望月明義(どうぶつの病院)から報告があった。

謝辞

今回の訪問に当たって、お世話いただいた関係各位の皆様にお礼を申し上げます。特にアルプス白鳥の会の会田仁氏と、諏訪白鳥の会の花岡幸一氏には訪問当日、車を出して案内いただき大変お世話になった。